

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
 平素は格別のお引立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
 この度、下記の検査項目につきまして、外注委託先より検査内容変更の連絡がございましたので
 ご案内申し上げます。
 先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具

(記)

【項目名】: 胃がんリスク層別化検査ABC分類

【変更日】: 平成29年4月1日(土)受付分より

【変更内容】:

コード	検査項目名	変更箇所	(新)	(現行)
2259	胃がんリスク層別化検査ABC分類	項目名称	胃がんリスク層別化検査ABC分類	胃の健康度ABC分類
		検査方法	H.ピロリ抗体 : EIA法 ペプシノゲン : ラテックス凝集法	同左
		陽性判定基準	H.ピロリ抗体 : (+)3.0 U/mL以上 ペプシノゲン : (+)PG I 値が70.0ng/mL以下 かつ PG I / II 比が3.0以下	ABC H.ピロリ抗体 : (+)10.0 U/mL以上 ABC ペプシノゲン : (+)PG I 値が70.0ng/mL以下 かつ PG I / II 比が3.0以下

【変更理由】:

本検査は、2014年12月および2015年6月に発信された日本ヘリコバクター学会の注意喚起(※1)を受けて検討された、胃がんリスク層別化検査運用研究会監修「運用の手引き」(※2)の掲載内容に基づくものです。

ABC分類におけるH.ピロリ抗体検査の判定基準を10.0 U/mLから3.0 U/mLといたします。

(※1)2015年6月30日の日本ヘリコバクター学会の注意喚起では、「H.ピロリ抗体が陰性であっても低値でない場合、胃がんリスクがない(A群)と判定しないでください。」とされています。

(※2)新しいABC分類胃がんリスク層別化検査(ABC分類)2016年度改定版 運用の手引き
 監修 : 胃がんリスク層別化検査運用研究会
 発行 : 認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構

【参考URL】 <http://www.gastro-health-now.org>

※ 裏面に続きます。

● 依頼上の注意点について

- ・ 除菌歴のある方は、項目コード2259(胃がんリスク層別化検査ABC分類)と項目コード5310(Hピロリ除菌歴有)の2つの依頼コードを同時にご依頼ください。測定結果とともに判定Eを報告いたします。
- ・ E判定対応項目コード5310(Hピロリ除菌歴有)のみではご依頼できません。

● ABC分類チャートについて

- ・ 2017年4月1日受付分より、検査名称を「胃がんリスク層別化検査ABC分類」とし、H.ピロリ抗体とペプシノゲンの検査試薬名及び検査方法を併記して報告させていただきます。
- ・ 各群のコメントを改訂いたします。

● 新検査チャート(見本)

胃がんリスク層別化検査(胃の健康度) ABC分類 チャート

000-00 03835-00 見本病院
 受付No. 001-0001 カルテNo. KARTE-123456789
 採取日 '16年 12月 10日 氏名 テストケンタイ 性別 男性
 受付日 '16年 12月 10日 年齢 53歳 性別 男性
 報告日 '16年 12月 12日 科名 内科 性別 外来
 担当 TANTO-123456789先生 病棟 BYOTO-123456789 ABC検査

検査項目	測定結果	判定	ABC分類
H.ピロリ抗体/EIA (Eプレート栄研)	3.8 U/mL	(+)	B
ペプシノゲン I/LA (オートペプシノゲン)	44.2 ng/mL	(-)	
ペプシノゲン II/LA (オートペプシノゲン)	7.5 ng/mL		
ペプシノゲン I/II 比	5.9		

検査項目の()内は試薬名称です。

陽性判定基準

ヘリコバクター・ピロリ抗体	ペプシノゲン
3.0 U/mL以上	ペプシノゲンI値が70.0 ng/mL以下 かつ ペプシノゲンI/II比が3.0以下

胃がんリスク層別化検査 ABC分類とは…

胃潰瘍・十二指腸潰瘍の主な原因と考えられているヘリコバクター・ピロリ菌の抗体価検査と胃粘膜萎縮(老化)マーカーのペプシノゲン検査とを組み合わせ、胃がんリスクをABCの3群に分類するのが胃がんリスク層別化検査ABC分類です。このABC分類を用いて、胃がんリスクに応じた検診要請を設定し、効率的に検診を行う方法が胃がんリスク層別化検査です。

※ ABCDの4群に分類するABCD分類もあります。

<ABC分類に適さない方>

- ・ 胃の病気の治療中の方
- ・ 胃切除後の方
- ・ 胃酸を抑える薬を服用中の方
- ・ 腎不全の方
- ・ ヘリコバクター・ピロリ菌除菌治療を受けた方

これらに該当する方は医療機関にご確認、ご相談ください。

ABC分類 (ABCD分類)	ヘリコバクター・ピロリ抗体価検査	
	(-)	(+)
ペプシノゲン検査	(-)	A
	(+)	D (C)
		B
		C

*印で示した分類があなたの検査結果です。

A群 おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病変に注意しましょう。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の痕跡がある方が含まれます。一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。

B群 少し弱った胃粘膜です。胃かいよう・十二指腸かいようなどに注意しましょう。胃がんのリスクもあります。内視鏡検査を受けましょう。
*ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

C群 萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

D群(C群) 萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてご相談ください。

E群 ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌群)として定期的な内視鏡検査を受けましょう。除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

ヘリコバクター・ピロリ抗体価検査とは…

胃がヘリコバクター・ピロリ菌に感染していないかを調べる検査です。ヘリコバクター・ピロリ菌は胃酸の分泌や胃粘膜の免疫能の働きが不十分な幼小児期(4~5歳)頃までに感染すると考えられています。子供の頃に感染しなかった場合、大人になってから感染することは稀だと言われています。

ペプシノゲン検査とは…

食べ物の消化に関与する「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を調べることで胃粘膜の萎縮(老化)の状態を客観的に調べる検査です。

久留米臨床検査センター
 Kurume Clinical Laboratories

(17.4)